AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究抄録(2022.4)令和2・3年度:

外来における転倒予防に対する3年間の取組み

[illegible]

外来における転倒予防に対する3年間の取組み

旭川医科大学病院　外来ナースステーション
○浅谷麻美　坪井真綾　佐久間さゆり　小野康子　末武美穂
前川真里　伊藤擁子　橋口里美　谷本幸代　田中理佳

Ⅰ.はじめに
外来でのインシデント総数に対する転倒事例の割合は高い。その要因の分析、介入方法の検討が転倒予防に繋がると考え3年間取組んだ。

Ⅱ.目的
転倒要因の分析と介入を行い患者・付添者の転倒予防に対する意識向上と行動変容を促す介入による効果と課題を明らかにする。

Ⅲ.方法
2018年は看護師対象の転倒予防に対する意識結果から転倒要因分析を実施。2019年は患者や付添者に「車椅子使用方法説明書」を配付後、半構成的聞き取り調査の実施。2020年は転倒予防のDVDを作成し外来待合にて上映、事務部門と連携し外来の転倒リスク環境を示したパンフレットを配付し、患者個々に合った補助具の提案や転倒リスクへの注意点を指導し、患者・付添者対象の転倒予防への意識と行動の聞き取り調査を実施した。

Ⅳ.結果
2018~2019年は患者・付添者共に半数以上が車椅子使用未経験や受診時のみ使用であることが分かり、「車椅子使用方法説明書」の活用により患者の8割、付添者の9割が正しい使用方法を理解できた。そして、2020年の取組み後、患者・付添者は具体的な複数の転倒予防策を言語化でき、外来における転倒リスク環境の認知度が上昇した。補助具使用下での転倒件数は12件から5件、転倒が多かった場所での転倒件数は10件から5件に減少した。

Ⅴ.考察
1日2000人前後の外来患者が来院している中で、転倒要因が明らかになったことから、外来全体での効果的かつ標準的介入の実践が可能となった。また、事務部門の協力も転倒予防介入の一助となった。この3年間の段階的な取組みにより、多くの患者・付添者が補助具の正しい使用方法や転倒リスク環境を周知し、意識・行動変容へと繋がった結果、転倒件数が減少したと考える。しかし、現在補助具使用下での転倒件数は減少傾向にあるが、介入前の転倒も散見され、超高齢化社会において、これまで以上に社会資源の情報提供や地域医療機関・施設と連携し介入を継続していく必要がある。

Ⅵ.結論
1.　車椅子の正しい使用方法の周知、転倒予防DVDによる情報提供は転倒予防に効果的であった。
2.　他部門との連携は外来患者を取り巻く転倒予防チーム作りの一助となった。
3.　今後も患者・付添者への転倒予防教育と地域連携を強化していく必要がある。